

資料5：医療関係者審議会医師部会意見

厚生省*（平4.3.19）

今回の医師国家試験出題基準の改定に伴い、医師国家試験は、医療に第一歩を踏み出す医師に必要な基本的知識・技能をさらに良く評価できるよう改善が図られた。今後は、漸次改善の実をあげながら、平成8年度の次期改定を目指すこととするが、平成5年の試験に際しては、卒前教育の実情を踏まえ、かつ、以下の点に留意して、実施に当たるものとする。

1. 試験問題数は従来通り320題とし、内訳は一般

問題200題、臨床実地問題120題とする。

2. 科目による必須・選定の別を廃止し、毎回の試験とも、出題基準に示された領域全体から、バランスよく出題する。
3. 従前の診療科の枠にとらわれない出題を可能にするよう、臓器系統的な問題指向を積極的に導入する。

* 医療関係者審議会医師部会、部会長：前川 正

資料6：現在の医師国家試験の試験形式について

厚生省（平5～平6）

1. 試験内容

(1) 科目区分 なし（医学総論、医学各論）

※ 平成4年まで必須5科目、選定2科目で実施していたが、全人的な医療の実践を目指すためには、医学的知識・技能を診療科の区分に沿って網羅することは必ずしも望ましい方法ではないという基本的考えから平成5年より診療科の枠を撤廃し、臓器系統的な問題指向を積極的に導入することとした。

- (2) 設問数 320問（うち臨床実地問題120問）
- (3) 試験方法 客観式（五肢択一）

2. 試験実施回数 年1回（昭和60年～）

3. 試験実施日数 筆記2日

4. その他

- (1) 主観式問題 昭和47年から廃止
- (2) 実地（口頭）試験 昭和50年から廃止